

カントウータ

Cantuta 14

社団法人日本ボリビア協会

Homepage: <http://www.nipponbolivia.org/>

2009/12/12 発行

協会からのお知らせ

1. 総会議事録

平成 20 会計年度総会議事録

平成 21 年 8 月 11 日午後 4 時 00 分より、当協会のある第一西脇ビル 1 階会議室において平成 20 会計年度の総会が、開催された。

会員総数（会費納入または出欠席の連絡あった人の総数）	49
出席者	20
委任状	23
有効議決権数	43

よって、本総会は、会員総数の過半数に達し、適法に成立した。

出席者は次の 20 名である。

1 今村忠雄、2 小川秀樹、3 学校法人阪神学園、4 佐々木仁、5(株)ジャパンエコロジー（新幹線遅延で総会には間に合わず、議長に全権委任）、6 白石健次、7 白川光徳、8 末永昌介、9 杉田房子、10 高畑敏男、11 田中茂、12 長嶺為泰、13 西脇商事(有)、14 林屋永吉、15 藤本正夫、16 細野豊、17 渡邊英一郎、18 渡邊英樹、19 金田正敏、20 三浦光

外に来賓として、ボリビア共和国大使館のヒロンガ一等書記官、元サンタクルス日本領事館に勤務していた井出さん夫妻の出席があった。

議長林屋永吉が、開会を宣言し、議事録署名人に細野豊、佐々木仁を選任して、議事に入った。

第 1 号議案 平成 20 年度事業報告及び収支決算並びに財産目録承認の件

議長林屋永吉は、別添のとおり事業報告と収支決算ならびに財産目録に関する詳細説明を渡邊専務理事に行わしめ、続いて佐々木仁監事の監査報告を求め後に、その当否について諮ったところ、満場一致をもってこれを、承認・可決した。

第 2 号議案 平成 21 年度業計画及び収支予算承認の件

議長は、別添のとおり平成 21 年度の事業計画及び収支予算に関する詳細説明を渡邊専務理事に行わした後に、その当否について諮ったところ、満場一致をもってこれを、承認・可決した。

第 3 号議案 緊急動議

続いて、専務理事の渡邊英樹が発言を求め、今後の協会の運営について次のような提案書を出席者全員に配布し、説明を行った。

協会事務所移転と今後の運営について

(提案者：渡邊英樹)

経緯と問題点

当協会を西脇ビルにおいたのは、(株)フジタ会長が在東京ボリビア国名誉領事の職を返還し、かつ新たに名誉領事をボリビア国から拝命したドイツ系の人物が領事館を開設する意欲がなく、領事業務を大使館内に併合したことにより、協会の行き場所がなくなったため、緊急避難的に、あくまでも暫定措置としてのことであつた。

その後、公益法人の見直し機運と、監督官庁の立ち入り検査等が厳しくなり、社団法人として存続する場合は、大使館内にある法人を抜き打ち監査する等のことは難しいとの判断もあり、大使館内に当協会を置くことについては消極的な意見もあつた。

しかし、現協会の場所は、ボリビアに渡航したり、ボリビアから帰国したりあるいは商取引または文化交流等に係わる人々の往来が皆無であり、ボリビアとの交流に係わる人々を把握し、新しい情報を収集したり、さらには、新規会員を増やし迎えるには、全く不向きであり、協会を発展させて行く場所としては不適當である。

すでに、会員の高齢化が進み、退会希望者が多く本年度は会員 50 名の確保も危ぶまれる状況にあり新規の会員の確保にも目途が立たないところから、社団法人として存続することは難しい情勢にある。

動議

以上の問題があつたにもかかわらず、これまで新たな事務所の選定に、努力してきたとはいいがたい反省にたつて、本年中にふさわしい場所の選定を行う。

そのためには、暫定的な現況のただらとした連鎖を断ち切り、新たな発展のステップボードとするために、「提案者自らが、自分に引導を渡す。」必要を痛感しております。

結論としまして、本年度限りをもって、協会の西脇ビルからの立ち退きと、提案者の専務理事職からの解任を求めます。

今後の対策

事務所の選定

社団法人から、任意団体になっても、団体のある程度のステイタスを保つためには、協会の所在地をボリビア大使館内にするのが、一番望ましい。フジタの名誉領事職返還の当時に比し、大使館内の混乱も一段落しており、スタッフも一新されていることから、時機的にも良いと思われる。

領事館も併設されていることから、新たな会員の獲得にも有利であるし、またなんといっても日ボ交流の一番の中心となるところに所在し、両国の友好親善という当協会の目的を達成するのに一番望ましい場所である。かつ、先の大統領歓迎式典等の大阪・沖縄の名誉領事館との行事の開催・経費のダブルも一元化でき、在日ボリビア人との交流の窓口も協会として一元化できる。(当協会の維持会員であり、かつ理事でもある両名誉領事の経済的負担は無視できないところに来ている。)

会員 50 名での協会運営

すでに、世間では株主総会の議決権の行使がインターネットでなされる等、情報の伝達や意見交換さらには組織の意思決定までが、廉価に、短時間に、多数の参加を得て、しかも内容が的確に残る形でパソコンを通じて為されている状況下にあり、当協会もこの時代の趨勢にあった体制とそれを駆使できる人々の運営に任せる。また現在進行中のホームページの自主立ち上げと更新により、インターネットの維持経費を軽減すれば協会の運営経費は大幅に削減でき、十分存続が可能であり、余力をイベント等に振り向けることも可能である。その方向での定款の変更・体制作り着手する。以上

上記の提案の審議に入り、白川理事より「社団法人」としてステイタスが維持できないのか？との質問があり、ラテンアメリカ協会・日伯協会・日本アルゼンチン協会等々の現況の検討もなされ、自らが社団法人日本海外協会の代表を勤める今村理事の説明等もあり、当協会が社団法人としてのステイタスを維持して行くことは困難との結論に達し、法人格を失い、任意団体になっても協会のステイタスを維持し、日ボ両国の友好促進を図るには、協会を大使館内に置いてもらうことも検討に値するとの結論に達し、提案書は、満場一致で可決され、事務所移転準備委員会の発足が決議され、次のとおり委員の選出が行われた。

事務所移転準備委員会・委員

林屋永吉・小川秀樹・白川光徳・細野 豊・金田正敏・渡邊英樹

上記の動議が承認可決したことに対し、渡邊理事の謝意が表明され、同理事が代表を勤める西脇ビルの当協会への事務所使用料の請求を来る9月分より、明け渡し期限の本年度末(平成22年3月)まで行わない旨の発言があった。

つづいて、田中茂相談役が発言を求め、協会に財政的な協力をしたいと金10万円の寄付金を提示され、今後も、毎年10万円の寄付を継続したい旨の協力表明があり、一同、同氏に対し、謝意を表した。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、午後5時30分閉会を宣言した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長並びに議事録署名人がこれに記名押印する

平成20年8月11日

社団法人 日本ボリビア協会総会

議事録署名人(議長・会長) 林屋永吉 印

議事録署名人(理事) 細野 豊 印

議事録署名人(監事) 佐々木 仁 印

すばらしい映画！

ボリビアのウユニ塩湖が舞台の映画『パチャママの贈りもの』は2009年12月19日から渋谷のユーロスペースにて上映される。

ウユニ塩湖の塩を切り取り、リヤマの背にのせ塩キャラバン続ける家族の一員コンドリ少年を主人公にドキュメンタリータッチで描いた作品。日本人監督松下部文の作品だけに、荒れた高地の生活もカメラを通してやわらかな色彩に変わり美しい。パチャママとはケチュア語で「大地の女神」を現わす言葉で、ここに住む人にとって、全ての恵みはパチャママから与えられたものといわれている。

この作品には、首都のラパスや第2の都市サンタクルスの近代的な町も出てこない。

しかし、高原に住むリヤマの可愛い目や、石だらけの大地を走りまわる少年たちの姿など、たしかにパチャママからの贈り物は素晴らしいと納得できる。(杉田)

『ボリビア移民の真実』

著者：寺神戸 曠

この度、芙蓉書房出版から標記の本が出版されました。著者の寺神戸曠(てらかどひさし)氏は入植間もないサンフアン移住地に農業技師として派遣され移住者と苦楽を共にし、いまでもサンフアン移住地を愛してやまない人物である。無責任に自国民を「犬も通わぬ」と言われた地に追い込んだ日本の移住政策の真実とそこから筆舌に尽くせぬ困苦と闘って、今日を築きあげた移住地の歴史の真実が明らかにされている。そこには、民を人とも思わぬ高慢不遜な魔物である官僚機構の正体も暴きだされており、回顧録として看過するには惜しい本である。著者の長男はボリビア生まれの有名なヴァイオリニスト兼指揮者である寺神戸亮氏である。

後援事業について

下記の事業に後援をいたしました。

ボリビアンチャリティゴルフ



コチャバンバ市で障害を持つ孤児等のリハビリ支援に懸命に取り組んでいる野原昭子さんをゴルフコンペに招き、現況報告をして頂きました。ボリビアとはまったく無縁の人々が趣旨に賛同して頂き今後の協力を約束してくれました。野原さんが食料買出しや子供達の移動用の車がなく難儀しておられるとのことですので今年のクリスマスには車両購入代金の一部に充当して頂くよう約 35 万円を贈ります。

独立記念イベント



8月9日新宿・歌舞伎町広場で関東地区在住のボリビア人の団体「ミ・ボリビア」主催の独立日を祝う式典とボリビアの音楽と踊りのデモンストラーションが行われ広場を埋めた人々を魅了。

チャランゴコンクール

チャランゴの巨匠エルネスト・カプールを招いて第1回全日本チャランゴ・コンクールが9月19日東京のカメリアホールで開催されました。当協会は、会員である井上ノエミさんが主宰する当コンクールを後援いたしました。

編集後記

14号の発行が遅くなり申し訳ありません。元気だった私が、何の因果か体調を崩して入院、そして自宅療養を続け、14号の編集がのびのびになりました。ご迷惑をお掛けしたことをお詫びいたします。8月11日の総会には林屋会長はじめ会議室の椅子が足りないほどの出席を頂き盛大に開催されました。ゲストとしてサンタクルス領事館に長いことお勤めだった井手さんご夫妻がご出席になり、皆さんと旧交を温めておられました。



今回は映画『パチャママのおくりもの』のパンフレットを封切日までに急ぎお届けいたしたく思い、連載記事を割愛させていただきましたこと悪しからずご了承ください。寒さ厳しき季節を無事乗り切れ、素晴らしい新年をお迎えくださいますよう祈願しております。(杉田)